



WORKSHOP 第3回J-PEAKS勉強会を開催しました。

2月27日、飯塚キャンパスのMILAiSで、J-PEAKS勉強会を開催しました。勉強会はこれで3回目の開催となります。教員、技術職員、事務職員のベテランから若手まで、多くの方にご参加頂きました。"頼り"になる仲間にJ-PEAKSで大学がどう変わるのかを伝え、一緒に考え、実行していく為に、これからも勉強会を重ねていきます。

(経営戦略室 大桶)



PROGRAM プレGAPファンドがスタートします!

九州工業大学では、研究成果を事業化につなげるための助成制度「プレGAPファンド」がスタートし、第一回公募では審査の結果17件が採択されました。プレGAPファンドに採択された研究シーズは事業化前の市場調査やビジネスモデルのブラッシュアップ、試作品作製、仮説検証のためのデータ取得等に助成し、スタートアップ創出を後押しします。また、事業化に関心を持つ企業にも積極的に呼びかけをしていきます。スタートアップが持続的に創出される、研究者にとっても職員にとっても魅力ある大学を目指し、確実に前進していきます。

宇宙、通信、ロボットなど本学が強みとする分野を中心に幅広い分野で採択されています!



採択案件はこちら
[九工大公式ページへ](#)



REPORT 「第9回研究大学コンソーシアムシンポジウム」の活動報告

2月13日に開催された「第9回研究大学コンソーシアムシンポジウム ～実践生成AI 研究大学が向き合うべき課題と活用術～」に参加し、AI活用の最先端について学んできました。

情報経営イノベーション専門職大学の中村伊知哉学長の基調講演に衝撃を受けました。私が中身を紹介するのはおこがましいので、ぜひ著作等に触れていただければと思います。

生成AIが食べているコーパス（世界中で人間が公開したテキストデータ）は、人間が生成するスピードより、AIが必要とする量の拡大スピードの方が速いため、一説によると2026年（今年）から枯渇してくるようです。では、AIの成長は止まるかということ、そんなことはなく、これからは大学や企業が抱え込んでいるクローズのデータをどう活用していくかということが、AIの性能向上や国家・企業の重要な戦略になってくるそうです。なるほど・・・

後半のパネルディスカッションでは、本学の山本鈺准教授が登壇し、AIを用いたニーズシーズマッチング支援システム「IQUESTECH」の紹介をしました。

夕方の懇親会では、乾杯のご発声でRUC全体会議の那須議長が「この場では『先生』という呼称は禁止です」と挨拶されて、「本学が提唱している取り組みもだいぶ全国区になってきたな」と、誇らしい気持ちになりました。

(経営戦略室 三宅)



先日、DXの勉強会で「全ての事業には『競争領域』と『協調領域』があると習いました。

大学は学生さんの成長・活躍・幸せを願っていて、科学技術の力で社会課題を解決しようとしています。それが、誰に与えられたものでもない、大学のパーパスです。

そう考えると、大学間に競争領域って存在するのでしょうか？

他大学を出し抜くことで目標に近づく領域などあるのでしょうか？

J-PEAKS事業では「競争から共創へ」という言葉が良く使われます。

2004年の法人化時は「競争環境で個性輝く」みたいなことが良く言われていました。「競争しなければ」という意識は二十数年にわたる壮大な思い込みだったような気がしています。

MIYAKE
リエゾンのつぶやき...



Announcement Board

所要時間
5分未満

info. 第3回目の教職員アンケートにご協力ください!

ビジョン2040とJ-PEAKS事業に関する意識調査。学内の浸透度を定点観測しながら、みなさんの声を施策に反映するために、定期的を実施しております。

回答締切：3月13日（金）

詳細はこちら
[学内者専用Garoonへ](#)